

## 女性のためのヘルスケア

みらいウイメンズクリニック

# みらい通信

(連載 第5回)

院長 萩原 弘光  
ちはら ひろみつ

子宮がんには、子宮頸部（子宮の入口）の扁平上皮から発生する子宮頸がんと、子宮体部（子宮本体）の子宮内膜から発生する子宮体がんがあります。一般的にいわれている子宮がん検診とは子宮頸がんの検診のことを指します。子宮頸がんは、原因がヒトパピローマウィルスであることが分かつており、早期に発見し治療を行えば完治するのも可能なんです。よってスクリーニング検査（集団に対し

て感度の高い簡易法で検査を行う、異常のある人を精密検査へと導くための検査）としての子宮がん検診には大きな意義があります。

国では進行したがんやがんによる死亡率は激減しているのに対し、日本では若い方々の進行したがんやがんによる死亡率が増加し始めているようです。これは20歳代から30歳代の若い方々の子宮がん検診受診率の低さが原因であると言われています。

このように子宮がんが若年化する一方で、妊娠の高齢化に伴い、妊娠前や妊娠中の子宮がんが急増しております。当院における2012年度の子宮がん検診受診者約900名の内、精密検査が必要であった方は25名（全体の2・8%）、その内65%は20歳代から30歳代の方々でした。また妊娠中の初期検査

で行う子宮がん検査で、精密検査が必要な方々は当院でも増加している印象があります。

## 望まれる早期受診

子宮頸がんは早期に発見す

れば妊娠性（妊娠する機能を保つこと）が温存され、完治するがんです。一方で発症年齢が20歳代から40歳代と若く、人生の中で仕事や家庭で一番充実した年代に当たり、発見が遅れた場合の影響は、本人ご家族を含め大きいものと思われます。当院

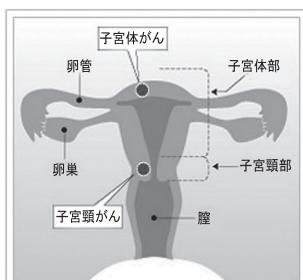
でも20歳代、30歳代の受診率は全体の48%に留まっておりま

## 子宮がんの若年化と受診率の低さ

先進国の子宮がん検診受診率は60～80%であるのに対し、日本では25%程度とその受診率の低さが際立っております。印西市でも受診率は30%前後と、やはり低いのが現状のようです。受診率が高い欧米諸

クでは、若い方々の受診率を引き上げるためにどのような工夫が必要かを絶えず考えてまいりたいと思います。

今年度の印西市の子宮がん検診（個別検診）は2014年1月までとなつております。まだお済みでない方は早めの受診をおすすめ致します。



（日本対がん協会HPより）

